

第30回記念大会

中国・四国・九州地区

生涯学習実践研究交流会



- 期 日 平成23年5月21日(土)～22日(日)
- 会 場 福岡県立社会教育総合センター
- 主 催 福岡県教育委員会
日本生涯教育学会九州支部
- 主 管 中国・四国・九州地区生涯学習実践研究交流会
第30回記念大会実行委員会
福岡県立社会教育総合センター

30回大会に感謝(第30回記念大会)

昭和57年に第1回を開催した「九州地区生涯教育実践研究交流会」は、今年で第30回という大きな節目を迎えました。振り返ってみれば、この30年間はかつて我が国が経験したことの無い激変の時代でした。

その間科学技術の革新が従来の社会構造を一変させました。なかでも産業構造はあっという間に第1次産業から第3次産業にシフトし、文化の基盤も地域社会の人間関係も、一挙に農村型社会から都市型社会に移行しつつあります。この都市型社会は成熟社会とも呼ばれています。今回到達した30年の節目も未だその変化の途上にあると言えます。

今後、社会がどのように変化していくかを予測することは困難ですが、変化の中で提起されるであろう様々な課題への対応や適応の場面で、教育が重要な役割を担うことは必至です。

この30回大会では、初めて大会のキー・コンセプトとして「未来の必要」を掲げサブ・コンセプトを「学習から教育へ」としました。

29回大会までの741に及ぶ実践事例の分析の中から、生涯学習の拡充・進展を認めつつも一方で生涯学習格差という大きな落とし穴に気づき、反省し、改めて生涯教育・社会教育の必要性を問いたいという想いが大会コンセプトに込められています。

記念すべき30回大会では、未来を見据えた熱き語らいと交流を期待しています。

中国・四国・九州地区生涯学習実践研究交流会
第30回記念大会代表世話人 森本 精造

中国・四国・九州地区生涯学習実践研究交流会 第30回記念大会 実行委員

◎平成22年5月から平成23年5月までに第30回記念大会の運営に携わった実行委員です。
本大会前日から第31回大会実行委員による運営が始まります。

- | | |
|--------------------------------|---------------------------|
| 前田 佳秀●鳥取県教育委員会事務局家庭・地域教育課 | 中川 忠宣●国立大学法人 大分大学 |
| 神門 三郎●松江市立八雲小学校 | 甲斐 良治●大分県教育庁社会教育課 |
| 渋谷 秀文●益田市立吉田小学校 | 池本 要●NPO法人 家庭・青少年教育ネットワーク |
| 山田 浩史●広島県教育委員会生涯学習課 | 山下亜紀子●国立大学法人 宮崎大学 |
| 正留 律雄●大野子ども体験活動・ボランティア活動支援センター | 竹内 一久●宮崎県教育庁生涯学習課 |
| 福原 洋子●岡山県教育庁生涯学習課 | 真邊 省至●鹿児島県立青少年研修センター |
| 赤田 博夫●山口市立鋳銭司小学校 | 橋口 紀文●かごしま県民大学中央センター |
| 高木 義夫●NPO高知県生涯学習支援センター | 鶴木 孝夫●霧島市立牧之原小学校 |
| 和田 瑞穂●愛媛県松山市立河野小学校 | 井上 講四●国立大学法人 琉球大学 |
| 関 弘紹●佐賀県教育庁社会教育・文化財課 | 大城喜江子●NPO法人 なはまちづくりネット |
| 林口 彰●財団法人 孔子の里 | 木原 忠●福岡県教育庁教育企画部社会教育課 |
| 紫園 来未●オフィス しおん | 角 伸幸●福岡県立社会教育総合センター |
| 鴻上 哲也●伊万里市立立花小学校 | 古市 勝也●九州共立大学 |
| 増田 祥子●長崎県教育庁生涯学習課 | 正平 辰男●純真短期大学 |
| 武次 寛●長崎市香焼公民館 | 大島 まな●九州女子大学 |
| 松岡 秀明●熊本県教育庁社会教育課 | 三浦清一郎●生涯学習・社会システム研究者 |
| 三角 幸三●宇城市立豊福小学校 | 森本 精造●NPO法人幼老共生まちづくり支援協会 |

Time Schedule **1st day 5.21 Sat.**

9:30	10:15	10:45	12:30	13:00
受付	開会式	研究発表.1	昼食	受付
玄関ロビー	講堂	第1会場:2F 第4研修室 第2会場:2F 自由研修室 第3会場:4F 視聴覚室 第4会場:4F 大研修室		玄関ロビー

13:30	16:15	16:30	17:00	17:30	20:00
研究発表.2	第30回記念大会 特別報告		第30回記念パーティー		
第1会場:2F 第4研修室 第2会場:2F 自由研修室 第3会場:4F 視聴覚室 第4会場:4F 大研修室	[30年:741事例の教訓] フリータイム		全体 講堂	県別 2F 食堂	



■日時：1日目の夜 17:30～ ■場所：講堂

「実践研究交流会は、実践事例の発表がメインなのか、懇親会がメインなのか？」と問われるくらい、毎年、毎年大盛況の懇親会です。ちょっと緊張気味だった参加者の皆さんが、料理をほおぼり、地酒を酌み交わして、「お国自慢」をし、「村おこし」の苦勞を話し合い、「人づくり」の楽しみを語り合います。その熱気に、人々の顔は真っ赤、会場はムンムン！今年も、全館貸し切りです。どうぞ心おきなく、お楽しみ下さい。

なお、せり市の売り上げは次年度の運営費の一部とさせていただきますので、ご了承下さい。

Time Schedule **2nd day 5.22 Sun.**

8:30	9:00	11:30	12:00
受付	第30回記念大会 特別企画 インタビュー・ダイアログ 未来の必要～「学習」から「教育」へ～	総括 閉会式	昼食
玄関ロビー	講堂	講堂	



■日時：5月21日・22日 ■場所：1F交流ロビー

大会開催中、参加者の皆さんが携わっておられる「まちづくり」や「人づくり」のイベントのポスターを掲示しています。どうぞ、ご覧下さい。



第1会場●2F 第4研修室

■司 会／福原 英忠 島根県吉賀町教育委員会・派遣社会教育主事
山田 浩史 広島県東広島市立河内西小学校 教頭

分科会の進め方

10:45~10:50

1 市民が立ち上げた観光ボランティアガイドの創意工夫 ー水木しげるロードはこげな所ー

10:50~11:20

島谷 修(鳥取県境港市 境港観光ボランティアの会)

発足は平成22年、きっかけはJR西日本からのディスカバーウエストハイキングの依頼である。市民5人が2か月間で「観光ボランティアの会」を立ち上げ、ガイドの実習を受け、「手引書」と「規約」を作成して実践に着手し、4月からのスタートとなった。その後ボランティアガイド養成講座を4回開催し、現在、会員は9人である。活動日は毎週日曜日の10:30、境港駅前出発としている。ガイドの基本は手引書で決めているが、個別のエピソードを研究して「こげな所」の中身については案内者の個性が発揮できるよう工夫している。

2 食育で一石五鳥の喜び広がる周南 ー市民・行政・大学の協働で進める青少年育成支援の発想と方法ー

11:25~11:55

木村弥々子(山口県周南市 環境ネットワーク山口 事務局長)

周南市が企画した山口県立大学が後援する地域環境アドバイザー養成講座を終了した受講生が、「食」を通じた健全な若年層の育成を企図して設立、平成22年1月から活動を開始した。中央公民館を活用し、県立大学・市健康増進課と連携しながら「学ぶ喜び・作る喜び・美味しい喜び・一緒に食べる喜び・体にいい喜び」の発想のもと、食育に強い関心をもつ市民の方々に、座学と調査・調理実習等の体験活動を組み合わせたワークショップ、青春旅立ち料理教室などを企画・実施している。

3 地域婦人会による教育参画事業 ー地域の子どもは地域で育てる婦人会活動ー

12:00~12:30

西山 智子(長崎県諫早市 諫早市連合婦人会 会長)

平成19年長崎県子ども政策局子ども未来課の子育て支援補助金を契機に活動を開始した。会は9地区の組織に分かれ、会員数は約1,100名である。「地域の子どもは地域で育てる」という思想を具体化するため、各小学校の学校行事、授業参観、PTA活動などの時に乳幼児の託児を引き受けたのである。実施方法については校長会および各PTAと協議の上実施している。授業参観への集中、保護者からの謝辞、幼児グループの形成、会員と保護者世代の交流、婦人会の社会貢献機能の社会的承認など多面的な効果を上げている。



第2会場 ● 2F 自由研修室

司 会 / 大木 昇 山口県山陽小野田市立高泊小学校 教頭
桑原 智信 長崎県時津町教育委員会社会教育課 課長

分科会の進め方

10:45~10:50

1 くまもと「親の学び」プログラムの提案 ー参加体験型学習の方法と進行役養成の意図ー

10:50~11:20

田原 里恵(熊本県熊本市 熊本県教育委員会社会教育課 社会教育主事)

県教育委員会が市町村教育委員会や福祉関係課と連携して、平成21年度から親の教育力向上プログラムを開発、22年度より学校や保育所・幼稚園、公民館で行われる家庭教育講座で実施している。発達段階に応じたしつけの問題提示、アイスブレイクやグループ活動などの具体的方法を提案。要となる進行役の養成とそのための方のトレーナー派遣にも力を入れている。進行役養成講座の参加はのべ770名、「親の学び」講座は8,300名を越えた。

2 地域コミュニティ南の島のアプローチ ー地域貢献型人材バンクの創設と官民協働によるヨロン方式のコミュニティ再生ー

11:25~11:55

田畑 文成(鹿児島県与論町 与論町教育委員会 生涯学習係)

平成17年にコミュニティ再生の切り札として「地域貢献型人材バンク」を創設し、現在511名(町民の11.6%)の登録者に達している。当初から活動の目的を「地域貢献」と明確に宣言し、官民協働による各種社会教育プログラムの実施を通して町民に浸透し、町の行財政改革に寄与するという点でも期待は大きい。今後は観光・商工・福祉分野の事業受託を含め、「新しい公共」としての役割を拡大していきたい。

3 「郷づくりコミュニティ」構想と連携したコミュニティ・スクール神興東の実践

12:00~12:30

小野 稔(福岡県福津市 福津市立神興東小学校 教頭)

福津市神興東地区の「郷づくりコミュニティ」構想と神興東小学校の「コミュニティ・スクール」構想は平成19年に同時スタートしている。住民がすすめる理想の地域づくりとコミュニティと共存する学校づくりが同時進行する形になったのである。活動の核心は、地域・家庭・学校の「共働」参画による行事の企画と運営である。具体的には、地域運動会、校区文化祭、遠足、避難訓練、交通安全教室、環境整備事業「夢空間づくり」などの共同実施である。現在、二者の「共働」体制が充実し、子どもの学習・生活習慣が定着し、校区住民の交流も拡大・深化している。



第3会場 ● 4F 視聴覚室

司 会 / 中原 誠輔 山口県下関市立栗野小学校 教頭
林田 匡 熊本県熊本市立本荘小学校 教諭

分科会の進め方

10:45~10:50

1 健康づくり実践に踏み込んだ公民館の高齢者保健教育の思想とプロセス 10:50~11:20

平川 裕之(福岡県田川市 田川市教育委員会生涯学習課)

介護予防は現行システム上基本的に福祉行政の事業であるが、高齢者教育の一環として公民館がプログラム化した背景には、田川市における介護保険認定者数値(出現率)の高さがある。介護予防は社会教育における実践的な予防教育の新企画である。事業は保健センター、運動指導を主とするNPO、県立大学、地域内小学校などと協働した総合的健康づくり実践プログラムである。中身は「健康運動プログラム」の実践、「食育」の実地指導、小学校の協力を得た子どもと高齢者の「給食ランチ・パーティー」、大学による「介護予防のための地域リーダー研修会」などを組み合わせている。

2 ビッグフィールド大野隊 —大人が掲げた教育思想とその実践、子どもが受けとめた体験活動の成果と社会貢献— 11:25~11:55

川西 董泰(広島県廿日市市 ビッグフィールド大野隊 見守り隊代表、大野中学校区学校地域支援本部 地域コーディネーター)
岡崎 良雄(広島県廿日市市 ビッグフィールド大野隊 見守り隊、大野中学校区学校地域支援本部 地域コーディネーター)
佐々木順子(広島県廿日市市 ビッグフィールド大野隊 見守り隊、大野中学校区学校地域支援本部 地域コーディネーター)

H16年に創設した大野隊の目標は、自立した一人前の子どもを育てることである。大人たちはボランティア活動・体験教育を指導法として採用した。対象は旧大野町内の小中学生から公募する。活動の終了後は「見守り隊ジュニア」として様々な年代が隊員を支援している。合併後も子ども自身の社会貢献、異年齢集団での活動、労働を通じた自主財源の捻出、自らの実践を通して学ぶなどの理念を貫徹して活動を継続している。2010年アレク・ディクソン賞を受賞。

3 「家読(うちどく)」で築く家族・地域の絆 —佐賀県伊万里市黒川町「家読(うちどく)」推進運動の挑戦と成果— 12:00~12:30

小島 哲郎(佐賀県伊万里市 黒川町「家読」連絡会 事務局長【伊万里市黒川公民館】)

伊万里市が「『家読』のすすめ」運動を推進し、住民による読み聞かせや読書運動が積極的であった黒川町がそのモデル地区に指定された。以来、「家読」はその活動推進を地区が受託する事業となり、幼保小中学校も地域と一体となって定例の「家読」集会、各種おはなし会、「家読」発表会などの行事を積み重ねて広く住民に浸透し、読書運動を通して子どもの情操教育の推進はもとより、家族・地域の絆が形成されて行った。平成20年、伊万里市は「家読」推進の成果に対して全国で唯一、文字・活字文化大賞を受賞した。



第4会場 ● 4F 大研修室

司 会 / 伊藤 浩規 福岡県教育庁北筑後教育事務所社会教育室主任社会教育主事
吉永 早苗 佐賀県多久市総合政策課男女参画・市民活動推進係

分科会の進め方 10:45~10:50

1 キッズ・サイエンス・クラブの「おや?なぜ?実験・発見・体験」プログラム
ー長与町「子ども科学教室」の教育課程ー 10:50~11:20

桑原 潤(長崎県長与町 長与町「子ども科学教室」実行委員)
江崎 孝(長崎県長与町 長与町「子ども科学教室」実行委員)

科学教室は応募者が殺到して人気のプログラムとなり平成17年以降定着している。運営は専門技術者をはじめ各レベルの学校の教員、教育委員、社会教育指導員等が構成する運営委員会が担当している。目標は好奇心、探究心、自主性などの「科学する心」においている。人気の底辺には、冒険、緊張、挑戦、発見、新体験などへの期待があると想定している。対象者は異学校、異年齢、男女混在型で編成し、会場はエリア近辺の教育施設はもちろん、水産試験場、原子力発電所、三菱重工、火力発電所、私設農場、干拓堤防、ダムなども含んでいる。近年は月1回一年間8回のコースを設定している。

2 家庭教育支援の多角的アプローチ
ー「家庭教育12か条」と「6:30(ロクサンマル)運動」と「生活アンケート」ー 11:25~11:55

吉松 優子(鳥取県北栄町 北栄町教育委員会事務局生涯学習課 主事兼社会教育主事)

家庭における基本的な生活習慣が子どもの学力や規範意識に関係していることは周知の事実となったが、具体的に家庭教育を支援する方策は必ずしも明確ではない。旧北条町時代に、「6:30運動」として朝7時のチャイムを6時30分に変更した。合併後も登校準備に万全を期す外的条件を設定するかたわら、「子育て学習講座」を町内8か所で展開、さらに家庭教育の具体的な指針を提示した「家庭教育12か条」を制定して全戸配付している。家庭には子どもを巡る生活アンケートを実施し、また、親子で月例の目標を確認するための点検欄を付けたカレンダーを作成し、各自の努力を多角的に促すよう計画している。残された課題は実際に子どもが具体的な変容を遂げたのか、評価と測定である。

3 公民館が企画した「放課後子ども教室」のまちづくり交流 12:00~12:30

中野 浩(熊本県熊本市 熊本市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習課 社会教育主事)

公民館が企画した子ども教室は学校が広報機能を引き受けたことによって希望者が拡大し、公民館施設の自主講座で学ぶ人々の協力を得て施設利用の「空き時間枠」と自主講座生による「ボランティア講師」を同時に獲得・活用できるようになった。企画・連絡・調整は公民館が受けもっている。結果的に、異世代間の交流が活発になり、子どもは様々な活動の機会に恵まれ、指導者は役立ち感・生き甲斐を見出し、保護者の公民館に対する評価も向上した。いずれは中学生を対象としたアフタースクール・プログラムの実施も検討したい。



第1会場●2F 第4研修室

■司 会／谷口源太郎 鹿児島県立青少年研修センター 研修主事
森田 明敬 福岡県教育庁福岡教育事務所社会教育室 主任社会教育主事

分科会の進め方 13:30~13:35

1 公民館を核とする青少年の地域参画と住民協働のまちづくり
ー「若鮎の遡上」環境整備の共育プログラムー 13:35~14:05

原 和正(鳥取県南部町 東西町地域振興協議会 会長)

東西町青少年共育の取り組みは、30代の女性公民館主事の選出に始まった。子どもたちが公民館業務の手助けを始め、近年では地域も学校も「共育」に参加している。公民館の手伝いは、子どもの成長とともに異世代間の交流に広がり、文化祭、夏祭り、運動会、環境整備事業などの運営を子どもたちが担うようになり、まちづくりの総合的事業へと拡大・拡充してきた。町を離れた学生たちも行事に参加するため帰省したりする。彼らがおのれのふるさとを愛することを学べば、いつかは「若鮎の遡上」のように帰って来る。「共育」の夢と理想はそこに存する。

2 高等学校が仕掛ける体験的地域学の新しい仕組み
ー地域を支え、地域に支えられる「やかげ学」ー 14:10~14:40

室 貴由輝(岡山県矢掛町 岡山県立矢掛高等学校 教諭)

2・3年生を対象に2010年4月に開設。地域と連携した社会貢献・地域体験を核とした長期実習型の学習形態を採用し、内容・方法等については矢掛町、矢掛町教育委員会とそれぞれ協定を結んでいる。実習は週1回、2時間だが、2年生から3年生にかけ1年間、地域内の学校や福祉施設などの主要施設で体験し、その過程で異世代の人々と交流する。社会規範意識を身に付け、自尊感情のある自立した人間へと成長する。「やかげ学」は新しい体験的地域学への挑戦である。

ティータイム 14:40~15:05

3 “子ども アートワークショップ ユニット えりのり”の参加体験型生活・芸術教育
ーつながろう、やってみよう、みつけよう!えりのりができることー 15:05~15:35

江里口弘美(佐賀県小城市 子どもアートワークショップユニット えりのり)

田中 紀子(佐賀県小城市 子どもアートワークショップユニット えりのり)

アートワークショップを企画・運営している。主な内容は子ども自身が手やからだを動かしながら行う、工作、お絵かき、ものづくり、音楽、科学遊びなどのワークショップである。活動場所は主として佐賀市や小城市の児童センター、文化施設、公民館などである。1年に1度主催する回遊式のイベントの開催や地域のイベントに参加。2010年は「夜びな灯明町あそび(佐賀城下ひなまつりサテライトイベント)」や「夏の終わりの小旅行ーひみつのまちなみのしまツアー(佐賀市歴史民俗館)」などを実施した。

4 社会貢献の異世代交流で自己変革する高校生
ー身近なキャリア教育の組織化と地域交流の創造ー 15:40~16:10

浅野 昌子(大分県国東市 大分県立国東高等学校 教諭)

国東高校はJRC(ジュニア・レッド・クロス)のメンバーを中心に学校ぐるみの福祉活動の輪を広げている。生徒の活動場所は保育園、高齢者福祉施設、各種文化施設などである。活動の紹介・調整・連携は市のボランティアセンターが担当してくれている。生徒の社会貢献実践は異世代の交流を拡充し、キャリア教育の一環ともなり、体験の数だけ生徒は変わって行く。活動成果を認められて各種の財政上の支援もいただき、「ボランティア・スピリットアワード」(全国賞)、「福祉優秀校」表彰(大分合同新聞社)等を受賞している。



第2会場 ● 2F 自由研修室

■司 会／堺 裕明 福岡県教育庁筑豊教育事務所社会教育室主任社会教育主事
眞鍋 幸一 愛媛県県民活動推進課 課長

分科会の進め方 13:30~13:35

1 「今図書館で何が起きているか」ご存知ですか
-図書館のレファレンス機能を中核とした学習の拠点づくり、情報提供システムのネットワーク化と生活化- 13:35~14:05

山田 晋(鳥取県 鳥取県図書館協会 会長)
小林 隆志(鳥取県 鳥取県立図書館 支援協力課長)

レファレンスサービスと結合させた生活情報・問題解決情報の提供機能は、図書館を個人学習や問題解決学習の拠点として再評価すべき時代を到来させている。図書館の中に「支援協力」を業務とするシステムが生まれているのはその一例である。職員の情報の案内・提示・活用等の支援能力が向上すれば、図書館は蓄積された図書館情報の活川に加えて、従来の公民館が果たした生活課題の解決や学習、発表、交流の場でもあり得る。一方、生涯学習が生み出した市民の問題解決意欲、活動開発意識の向上に伴って図書館は自己判断・自己責任型社会のライフスタイルにマッチした生涯学習の拠点施設に変貌しつつあるのである。

2 「周南市歴史博士検定」を核としたふるさと教育による地域形成の方法 14:10~14:40

柏村 聡(山口県周南市 「周南市歴史博士検定」実行委員会事務局、周南市中央公民館)
花野 勝則(山口県周南市 「周南市歴史博士検定」実行委員会事務局)

「検定」の実行委員会は、郷土史研究家、ふるさと歴史講座講師、観光ボランティアガイドの会、教育委員会、観光政策課の関係者による混成である。「検定」の目的は郷土の歴史教育・学習を通して多様な地域形成機能を活性化することである。「検定」企画は様々な形態の教育・学習を促したに留まらず、地域メディアの協力を得て周知範囲が拡大し、タクシー協会、美術博物館、校長会、青年会議所、商工会議所、観光協会などを巻き込んだ各種派生的な事業を生み出している。

ティータイム 14:40~15:05

3 新一年生に花を育てる心と規範を育てる佐賀「夕顔運動」の22年 15:05~15:35

糸山 孝義(佐賀県佐賀市 夕顔運動佐賀県本部世話人 副代表)

福岡で29年前に始められた夕顔運動は、佐賀の地にも根付いて脈々と受け継がれ22年目となった。「良い子の皆さん!夕顔の花が咲く頃にはお家に帰りましょう」をキャッチフレーズに早めの帰宅を呼びかけるユニークな運動である。平成23年は、佐賀県全域の小学校184校、約8,100名の新入学児童生徒に「夕顔の種」「新聞」「アンケート用紙」をセットにして、各地域の世話人を通じて各小学校に配布した。夕顔は朝夕2回の水やりが不可欠であり、子どもは花を育てながら自らの情操をはぐくみ、生き物を育てる規範を身につけ、家族との交流を深めていっている。沢山の感想が寄せられ運動の成果を実感している。

4 ぼっけもんが植えた日本一の花文字のまちづくり
-霧島市福山町惣陣ヶ丘の空へのアピール- 15:40~16:10

川畑 巧(鹿児島県霧島市 NPO法人 ふっぎやまぼっけもん会 会員)

霧島市福山町は鹿児島空港への進入路の真下に位置している。そこで鹿児島湾から霧島連山まで360度の展望のきく惣陣ヶ丘に6,000本のツツジを植えて日本一の花文字のまちづくりを思い立った。花文字は「フ・ク・ヤ・マ」。一文字45m×40mである。毎年4月29日に下草薙りとパーベキューの交流会。お盆前後は電飾でライトアップして帰省客、訪問客に対する空へのアピールを行なう。児童更生施設の生徒も参加するようになって来たので今後の後継者づくりに注力したいと考えている。



第3会場 ● 4F 視聴覚室

■司 会／緒方 尚成 熊本県教育庁社会教育課 社会教育主事
藤山 粹 鹿児島県霧島市商工会青年部 統括副部長

分科会の進め方 13:30~13:35

1 津和野町「学びの協働」推進事業 13:35~14:05
—ふるさととは大きな家族をめざして—

山下 泰三(島根県津和野町 前津和野町教育委員会社会教育係・係長)
田中 茂秋(島根県津和野町 津和野町教育委員会派遣社会教育主事)

津和野町では学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを育てて行くための事業を「学びの協働」と名付けた。島根県が推進してきた「ふるさと教育推進事業」の一環として位置付けている。子どもを取り巻く関係者の協働を具体化するため学校に対する支援協力者を「学習パートナー」として位置付け、彼らの連携や協力を調整する「専任コーディネーター」を学校に配置する仕組みを作った。次の課題は地域と学校を教育的協働に組み込むための人材バンクや学社の協働を推進する公民館のコーディネート機能の充実が不可欠であると考えている。

2 地域づくりは拠点づくりから 14:10~14:40
—森の体験教室「森の駅」の思想と方法—

園田 秀則(山口県美祢市 「森の駅」 駅長)

郡会との交流拠点として作った森の体験教室。地域の振興会など民間のグループが中心となって平成10年に開校した。予算ゼロで、大嶺町の森を整備、ログハウスを手作りし、木工クラフト、炭焼き、昆虫観察、きのこづくり、散策・探検、山菜採り、薪炊き釜ご飯・ピザ焼き・パームクーヘンづくり等のプログラムを実施。年間約4,000名が入山している。課題は、災害対策・安全対策、指導者の高齢化である。

ティータイム 14:40~15:05

3 高齢者ボランティア集団の「3づくり」活動 15:05~15:35
—「明治楽友会」の生涯現役実践法—

加藤 俊一(大分県大分市 明治楽友会 元事務局長)

「3づくり」とは自分づくり、地域づくり、子どもづくりを言う。大分市明治地区の楽友会は平成14年の公民館男性教室から出発し、生涯学習と社会貢献を目的とした高齢者のボランティア集団に成長した。会員には草刈り機、網が張り、各種竹工作、竹馬遊びなど各種の技能を保有したものが多く、その機動力を駆使して子どもの教育支援、「里山再生」など官民の補助金を活用した地域貢献活動を展開している。結果的に、生涯現役を実践する会員の活力は維持され、医療費、介護費などは最少限に留まり、引きこもりもない。3年前から会員個々の生き方と会の活動の在り方の関係について、議論が始まり、平均年齢70歳を超えた今年、会員の減少と共に高齢者ボランティアの集団的な在り方について、一つの答えを出そうとしている。

4 子どもの成長をサポートする地域と中学校の協働 15:40~16:10
—地域資源を活用したプログラムの開発と課題—

屋部 文幹(沖縄県那覇市 石嶺中学校 校長)

学校、家庭、地域住民が協働で子どもたちへの教育活動を支援するために、平成20年度から学校支援地域本部実行委員会を中心に取り組んでいる。学校と地域の教育資源をつなぐ地域コーディネーターの働きが重要。これまでに学習支援はもちろん、熱帯果樹の寄贈・栽培、地域の祭を学校教育に取り入れる等、地域との協働の新しい取り組みが展開。学校を応援してくれる保護者や地域の各団体に勇気づけられている。



第4会場 ● 4F 大研修室

■司 会／續 洋子 沖縄県NPO法人なはまちづくりネット 職員
馬場 尚登 大分県教育庁社会教育課 社会教育主事

分科会の進め方 13:30~13:35

**1 地域の特色を生かした青少年体験活動の再開
—しまなみ尾道瀬戸田ウォータースポーツ教室—** 13:35~14:05

中本 重徳(広島県尾道市 尾道市役所瀬戸田支所しまおこし課 主査・瀬戸田生口地区子ども育成連合協議会)

瀬戸田町は、瀬戸内海のほぼ中央に位置する海に囲まれた2つの島で構成された地域である。行政主体で開催していた水泳・海洋スポーツ教室が、市町村合併後(平成19年度)に開催されなくなった。この度、次代を担う子どもたちに、島の特色を活かし、島ならではの体験をしてもらうことを通して、青少年の心身の健全育成に寄与することと、世代間・他地域との交流を促進することによる地域の活性化を目的に、子ども会・瀬戸田町水泳部・瀬戸の海にあそぶ会・瀬戸田町セーリングクラブ等の団体を中心となって、水泳教室、海洋スポーツ教室、キャンプ教室を復活させた。

**2 トーンチャイム演奏を通しての多面的な社会貢献活動の過程と成果
—トーンチャイムグループ「すいてんはーと」の10年—** 14:10~14:40

武智 理恵(愛媛県松山市 トーンチャイムグループ「すいてんはーと」 代表)

活動開始は平成13年。活動はトーンチャイムの特性を生かした教育楽器としての演奏体験を重視する一方、音楽療法の機能を駆使して年間60か所以上の各種施設を訪問している。主要な活動場所は、幼保の施設、学校、アイ・サービスホーム、病院などのほかにイベントなどにも出演する。状況・要望に応じて絵本やパネルシアターと組み合わせたり、体験コーナーを設置するなど参加者とのコミュニケーションを重視している。音楽療法を展開しながら視聴覚のしょうがいを持つ人々とのつながりができたことを成果としている。

ティータイム 14:40~15:05

**3 国が仕掛ける「子ども農山漁村交流プロジェクト」の
自然体験学習とグリーンツーリズムの促進策** 15:05~15:35

山口 久臣(熊本県 (有)野外教育研究所アイオーイー 代表取締役所長)

平成20年、文科省、農水省、総務省の連携事業として開始された子どもを対象とした国策の「自然学校」事業である。5年後には全国の小学5年生120万人がグリーンツーリズムの形で農山漁村に滞在し体験学習と交流を行なうことになっている。当野外教育研究所は九州ブロックコーディネイト組織として、受け入れ体制の整備、指導者の育成、体験プログラムの創出、安全対策などを担当している。当面の予算は5年限定で国が計上するというものである。この3年の間で沖縄県を除く九州7県で約30地域に受け入れ可能な体制が整備された。

4 子どもによる子どものための美術館 15:40~16:10

中込 潤(福岡県直方市 直方谷尾美術館 学芸員)

2005年活動を開始。毎年春に子どもスタッフを募集し、「子どものための美術館」と題した展覧会を子どもの手で開催する。展示作品の選定、紹介、広報、ギャラリートークなども子ども自身の手で行なう。作家との交流、商店街の依頼への対応、成人式の垂れ幕づくりなど地域における子どもの居場所と活躍のステージを併せて創造している。2010年朝日のびのび教育賞を受賞。

1st day
5.21 Sat.

第30回記念大会

特別報告

■時間 / 16:30 ~ 17:00

■会場 / 4F 大研修室

テーマ●「30年:741事例の教訓」

三浦清一郎

2nd day
5.22 Sun.

第30回記念大会

特別企画

■時間 / 9:00 ~ 11:30

■会場 / 講堂

インタビュー・ダイアローグ

未来の必要～「学習」から「教育」へ～

この度大会実行委員会では30周年を記念して「未来の必要—生涯教育立国論」（学文社）を出版いたしました。記念誌をつらぬく基本理念は、日本の未来を拓いて行くためには「市民要求」への対応をもつばらとする「生涯学習」だけでは不十分で、「社会の必要」を診断し、プログラム化する「生涯教育」の概念を復活させなければならないということです。特別ゲストに「生涯教育」の看板を掲げ続けた学会の前会長と「社会教育」の旗を降ろさなかった国のセンター長をお招きして未来の教育は何を必要としているのか、優先順位はどこにあるのか、何故そうなのか、多様な視点での御議論をお願いいたしました。

<登壇者プロフィール>

●浅井 経子

（日本生涯教育学会前会長、八洲学園大学教授）

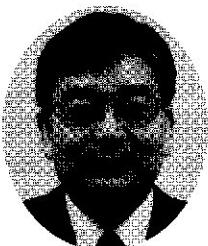


東京都生まれ。筑波大学大学院博士課程教育学研究科単位取得退学。淑徳短期大学教授を経て、2004年4月より八洲学園大学教授就任。専門は、生涯学習学・社会教育学。主な学会活動・社会的活動としては、日本生涯教育学会常任理事、文部科学省中央教育審議会生涯学習分科会臨時委員、文部科学省政策評価に関する有識者会議委員、兵庫県県民生活審議委員等。

主な著書に『生涯学習概論』（編著）、『「総合的な学習の時間」のための学社連携・融合ハンドブック』（共編著）、『改訂 社会教育法解説』（共著）、『学校改善新戦略』（共著）などがある。

●服部 英二

（国立教育政策研究所社会教育実践研究センター長・文部科学省生涯学習政策局社会教育官）



文部省社会教育局青少年課、社会教育課。国立山口徳地・那須甲子少年自然の家事業課長、国立オリンピック記念青少年総合センター業務課長、文部省生涯学習局生涯学習振興課専門員、内閣府青少年企画担当参事官補佐、独立行政法人国立少年の家青年の家本部長、金沢大学大学教育開放センター教授などを歴任、国立沖縄青少年交流の家所長を経て2009年8月より現職。

●正平 辰男

(実行委員、純真短期大学特任教授)



福岡県教育庁社会教育課主幹社会教育主事、福岡県立社会教育総合センター副所長を歴任。2003年、東和大学総合教育センター長・特任教授、2008年より現職。

福岡県社会教育委員、福岡県社会教育委員連絡協議会々長、教育力向上福岡県民運動推進会議委員、NPO法人体験教育研究会ドングリ理事長。

1983年より生活体験プログラム「通学キャンプ」に取り組む。1985年、1泊12日の通学キャンプを企画、実践。1989年より旧庄内町立生活体験学校で、年間20回の「通学合宿」の企画・実践に参画。著書に、「子どもの育ちと生活体験の輝き～これまでの通学合宿、これからの通学合宿」、「子どもの生活体験学習をデザインする」(分担執筆)、「通学合宿・生活体験の勧め」、「生活体験学習入門(共著)」などがある。

●森本 精造

(代表世話人、NPO法人幼老共生まちづくり支援協会理事長)



福岡県社会教育課長、福岡県立社会教育総合センター所長、穂波町教育長、飯塚市教育長を経て現職。穂波町時代、西日本で初めての「学校選択制」の導入。全公立小学校に導入した穂波「子どもマナビ塾」、合併後の飯塚市では「熟年者マナビ塾」などの多くの先駆的行政施策の開発を手がけて来た。2010年度にNPO法人幼老共生まちづくり支援協会を設立し、積極的に活動を展開中である。中国・四国・九州地区生涯学習実践研究交流会代表世話人。

<司会者>

●三浦清一郎

(実行委員、生涯学習通信「風の便り」編集長)



国立社会教育研修所、文部省、福岡教育大学などを経て現在三浦清一郎事務所を設立。生涯学習通信「風の便り」編集長。近著に「しつけの回復、教えることの復権」(2008年)、「変わってしまった女と変わりたくない男」(2009年)、「安楽余生やめますか、それとも人間やめますか」(2010年)、「自分のためのボランティア」(2010年)(いずれも学文社)がある。

第29回大会開催報告

- 大会期日 2010年5月15日(土)～16日(日)
- 場 所 福岡県立社会教育総合センター

実践研究発表者
司会者及び
県別参加者

中国地区			
県名	発表発表数	司会者数	参加者数
山 山	8	1	16
広 島	2	0	6
鳥 根	3	1	25
鳥 取	4	0	22
岡 山	1	1	5
計	18	3	74

中国・四国・九州地区以外			
県名	発表発表数	司会者数	参加者数
京 京	0	0	4
埼 玉	0	0	1
大 阪	0	0	1
奈 良	0	0	1
京 都	0	0	1
計	0	0	8

四国地区			
県名	発表発表数	司会者数	参加者数
高 知	0	0	2
愛 媛	2	1	7
計	2	1	9

九州地区			
県名	発表発表数	司会者数	参加者数
福 岡	6	2	188
佐 賀	3	2	40
熊 本	2	2	7
大 分	2	1	11
宮 崎	1	0	1
長 崎	2	1	19
鹿 児 島	1	2	6
沖 縄	1	0	22
計	18	10	294

	発表者数	司会者数	参加者数	実行委・登壇者数	総参加者数
総 計	38	14	385	29	466

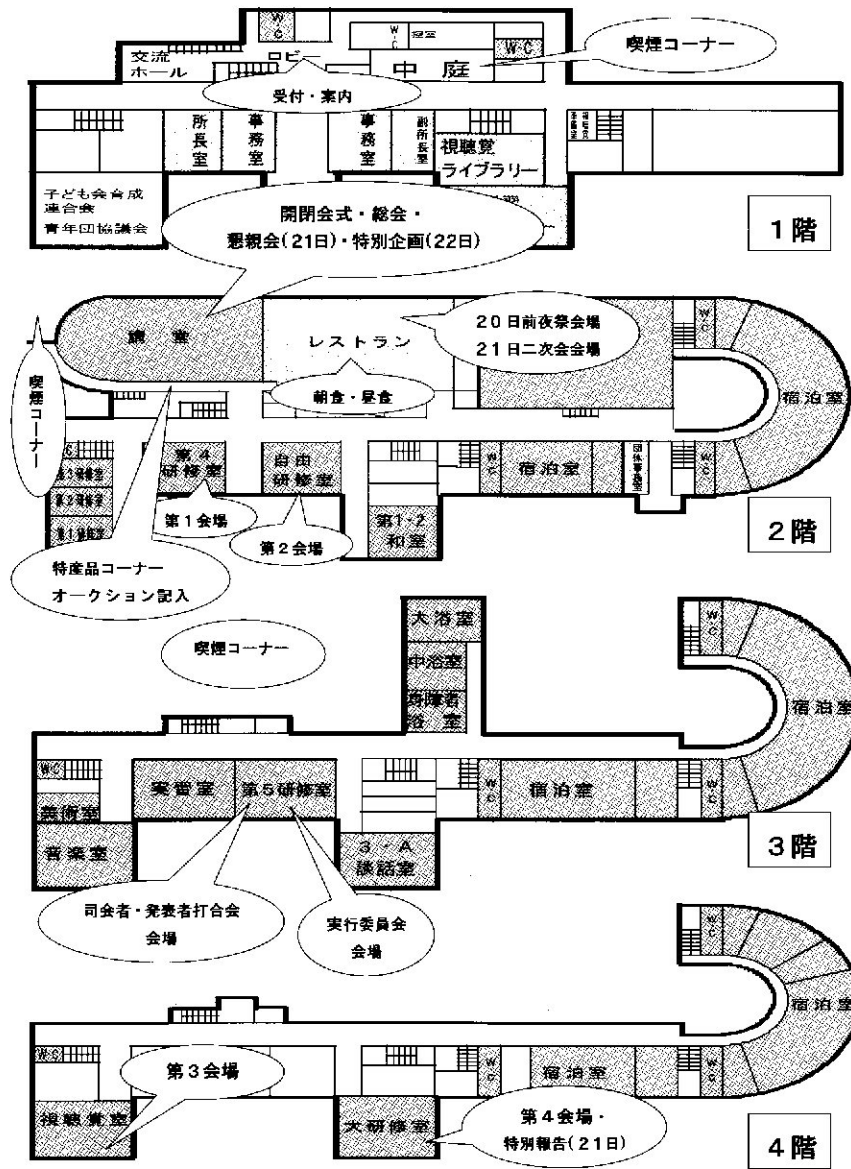
特産品、稀少品ありがとうございました

第29回大会も皆様のご協力により、
たくさんの特産品が集まりました。ありがとうございました。

番号	氏名・団体名(様)	県名	所属名	特産品名
1	杉原 潔	広島県		ふるさとレモン
2	大城 喜江子	沖縄県	NPO法人なはまちづくりネット	塩せんべい(5枚入り×3袋)
3	森本 精造	福岡県	飯塚市教育委員会	たまご
4	小松 義徳	高知県	NPO高知アイバック	十作打包丁
5	古山 佳子	沖縄県	中頭地区社会教育主事協会	琉球泡盛&パッションフルーツ
6	諸見里 伸	沖縄県	中頭地区社会教育主事協会	泡盛残波(古酒) 黒糖本家
7	比嘉 貢之	沖縄県	中城村青年連合会	菊の露 親方の酒
8	宮城 玲了	沖縄県	沖縄県北谷町女性連合会	あわもり「北谷長老」
9	天久 純子	沖縄県	北中城村婦人会	ちんすこう&北中城村特産アーザ
10	長崎 信了	沖縄県	西原町	塩味ちんすこう
11	上野 敦子	山口県	井関にこにこクラブ	原酒 山頭火
12	中本 岩郎	沖縄県	宜野湾市青年連合会	宜野湾市大山タームパイ(1ロール+パイ5個)
13	宮里 ノイミ	沖縄県	うるま市女性連合会	ぬちまーず(沖縄の海産物)・こんべいし(しょうが)・伊江島(ナガサキ)・八重山県産にゃいぶくろ(2こ)
14	安次嶺 千賀子	沖縄県	沖縄市婦人連合会	Tシャツ(全島エイサー)・エイサーたいこ(お守り)×9個
15	赤田 博夫	山口県	実行委員	自家 米酒
16	大島 まな	福岡県	九州女子短期大学	福岡県産「夢つくし」のあま酒(アルコール分なし)日ワインシャルドネ(フランス産)
17	中吉 浩一郎	岡山県	岡山市教育委員会 生涯学習課	赤築雄町米酒 酒一筋 純米吟醸 きびだんご×2箱
18	増田 清子	鳥取県	津和野町教育委員会学びの協働コーディネーター	純米酒2種セット 津和野の銘菓「源氏巻」
19	三浦 清一郎	福岡県		剣菱
20	古市 勝也	福岡県	九州共立大学	琉球泡盛
21	永淵 美法	福岡県	九州共立大学	ワイン
22	福原 祥子	岡山県	県教育庁生涯学習課	清酒 9(ナイン)・ホルモンうどんのたれ
23	紫園 未来	佐賀県	officeしおん	コースター(サイパンみやげ)・ピーナツあめ(韓国みやげ)
24	大下 修一	鳥取県	伯耆町 地域づくりセンター	焼酎「なまけ者になりなさい」・鬼太郎パイ

番号	氏名・団体名(様)	県名	所属名	特産品名
25	卜蔵 久子	鳥取県	タムタムスクール実行委員会	鬼太郎サシ
26	松田 暁子	鳥取県	日野ボランティアネットワーク	栗まんじゅう できたて15コ入り
27	田中 崇詩	鳥取県	米子市教育委員会 生涯学習課	おかしセット
28	湯嶋 稔	鳥取県	米子市児童文化センター	米屋 吾左衛門すし 鯖
29	松本 英俊	長崎県		ヤケザケ 芋焼酎
30	一瓶 春美	山口県	たぶせ雑学大学	田布施いちじくわいん
31	白田 ゆう子	福岡県	社教センター	大阿蘇 万能茶 博多まるん
32	仙波 英徳	愛媛県	えひめ子どもチャレンジ支援機構	仁喜多津一朶の雲 いちだのくも
33	藤井 仁志	鳥取県	県教育委員会中部教育局	倉吉名物「打吹公園だんご」
34	森 三保	福岡県		焼酎「加藤清正」
35	梅野 悦子	大分県		釜飯の素 ×3
36	佐賀県社会教育文化財課	佐賀県	社会教育文化財課	がばいのり
37	末永 光正	山口県	萩市生涯学習課	焼酎(米)長州ファイブ
38	松本 洋介	鳥取県	東部教育局	おたまで栗せりー菓「コッポ」菓子らっきょうせんべいおにぎりに漬けたカノーせんべい
39	中村由和江、長尾明美	広島県	夢講座	ふりかけ&お好みソース
40	脇黒丸 陽一	鹿児島県	市教育委員会 生涯学習課	黒糖焼酎
41	蘭 三恵	佐賀県	佐賀市	ひし娘
42	太田黒 保宏	熊本県	熊本県生涯学習推進センター	熊本ラーメン
43	増田 祥子	長崎県	長崎県教育庁生涯学習課	鶴山社中(清酒)
44	森 健一郎	福岡県	南陵太鼓(南陵塾)	巨峰ワイン
45	新山雄次、国府修治	愛媛県	国立大洲青少年交流の家	じゃこ天
46	寺田 和寿	鳥取県	鳥取県教育委員会 西部教育局	夢語(ゆめかたり)
47	汐田 美穂	鳥取県	大山町役場 観光商工課	大山ピーナッツ みくりや 板わかめ 2個
48	安 英美	鳥取県	西部教育局	グググの女房セット(妖艶温泉玉、3Dグググノート、一長もめん湯、きたろうカレー)
49	山田	広島県		カープかつ(2セット)
50	服部 英二	東京都	国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター	東京国立博物館 特別展「細川家の至宝」図録 浅草こげせん
51	長崎 信子	沖縄県	西原町	黒糖 宮古島産 2個
52	上西 誠	長崎県	県 生涯学習課	五島うどん詰合せ(だし付き)
53	平田 トシ子	佐賀県	ノバンセ 生涯学習事業	シャボン玉せっけん
54	伊藤	長崎県	生涯学習課	焼酎
55	永田 孝信	長崎県	県生涯学習課	長崎ラベンダー 2個
56	熊本 崇	長崎県	生涯学習課	ちゃんぽんとあごだし
57	林山彰、田島恭子	佐賀県	財団法人「孔子の里」	萩菜(せきさい)あまざけ清酒 孔子ゆかりの「多久の里」
58	林 亜紀子	長崎県	生涯学習課	龍馬てぬぐいと梅月堂のおかし 幕末スベキョロスと再会おるごおる
59	緒方 友希	熊本県	宇城市立 小川小学校	白玉焼き ドーナツ 白玉粉
60	八島 大三	佐賀県	唐津市役所	古からつ 吟醸酒・呼子のイカ珍味セット
61	八島、山口	佐賀県	唐津市子育て支援情報センター	純椿油
62	川田 裕了	広島県	ビッグフィールド大野隊	もみじ万十
63	藤原博ほか11名	島根県	雲南市	DAIGO原酒×3本
64	宮崎 克己	大分県		テコボン
65	松島俊枝ほか11名	島根県	雲南市	卵かけ醤油(関西風)×5本
66	NPO法人 こどもサポートにっこにこ	大分県	NPO法人 こどもサポートにっこにこ	かばす はちみつドリンク
67	森脇 康	大分県	県教育庁社会教育課	ひき茶まんじゅう
68	安心院 光義	大分県	大分県生涯教育学会	焼酎「いいちこ」
69	和田	愛媛県	河野小学校	愛媛宇礼島名産じゃこカツ
70	江口 峰男	岡山県	岡山県教育委員会岡山教育事務所	岡山県B級グルメ 津山名物ホルモンうどんのたれ
71	三宅 千恵	岡山県	岡山教育事務所生涯学習課	呉津酒辛子ドレッシング08 美人 スープも超うまいっ!!尾道ラーメン
72	小野 敏	岡山県	岡山教育事務所生涯学習課	御前酒にごり油
73	内藤 妙子	福岡県	南筑後教育事務所	芋焼酎

なお、紙面の都合上、敬称と職名は省略させて頂きました。万一、誤字や脱字、または、記入漏れがありましたときは、ご容赦下さいますようお願いいたします。



くおか社会教育ネットワーク 福岡県立社会教育総合センター
Fukuoka Prefectural Social Education Center

社会教育に関する最新情報の提供と、社会教育関係機関の紹介をするサイトです。

- **新着情報**
 - 【九洲地区】の電子登録が完了しました。(九州厚生労働局)
 - 【全国・四国・九州地区】生涯学習実践研究交流会の参加者を募集します。(社会センター)
 - 【ニュース広場】先着順掲載しました。(筑波山青年の家)
 - 【平成28年度】福岡県立社会教育総合センター事業の掲載しました。
 - 【センターNEWS】を更新しました。(社会センター)
- **社会教育最新情報**
 - イベント情報
 - 特別企画 新しい風
 - 国や県の教育情報
 - 県のデータ集

● **講座・研修を支援する情報が検索できます** 調べたいジャンルをクリックしてください。

- 人材情報** 各分野において専門の知識と技術を持った講師や指導者約300名の情報を提供しています。
- 視聴覚教材** 視聴覚ライブラリーの貸出可能なDVD、ビデオ、16mmフィルムなどの教材4200本以上の全作品情報。収録時間などの条件を入力して該当の視聴覚教材の検索が可能です。
- 国・県・市町村などの文献資料** 生涯学習・社会教育に関する文献資料、約2000冊の検索が可能です。

最新事例 を **クリックして** **ください!**

その他、福岡県内の社会教育に関するイベント・施設・HPリンクが見られる充実したホームページです。

福岡県立社会教育総合センター
 住所 〒811-2402 福岡県糟屋郡篠栗町大字金出3350-2
 TEL 092-947-3511 FAX 092-947-8029